

第6章 道徳教育（「特別の教科 道徳」を含む。）

第1 編成要領改訂の趣旨と要点

平成27年3月、文部科学省は学校教育法施行規則及び学習指導要領を一部改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」（以下「道徳科」という。）と位置付けた。平成27年7月に公表された小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では、これまでの道徳教育の課題について以下の例を示した上で、これらの課題や実態を真摯に受け止めつつ、その改善・充実に取り組んでいく必要がある。

- ・ 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
 - ・ 他教科に比べて軽んじられていること
 - ・ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること
- そのため、小学校教育課程編成要領（道徳）の改訂に当たっては、これらの課題を踏まえながら、各学校が指導計画の作成に、より創意工夫を生かせるよう心掛けたところである。

1 改訂の趣旨

学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切に行わなければならない。この道徳教育の基本的な考え方は、これまでの考え方を引き継ぐものであり、今回の改訂は、このことを踏まえた上で改善を図り、道徳教育を一層充実させようとするものである。

今回の改訂の趣旨は、次のとおりである。

- (1) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要としての道徳科の役割を示す。
- (2) そのための指導計画の作成と内容の取扱いを示す。
- (3) 道徳科の指導の在り方を明確にし、「考える道徳」「議論する道徳」を充実する。
- (4) 道徳教育を充実させるために必要な要点、配慮事項を示す。

2 改訂の要点

今回の改訂の要点について、小学校学習指導要領に沿い、以下のとおり示す。

- (1) 「第1章 総則」に関わって
 - ア 道徳教育も道徳科も、その目標は「道徳性」を養うことである。その上で、道徳教育の目標が、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と簡潔に示されたことを受け、その目標を指導計画等に反映すること。
 - イ 道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体で行うことから、校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となって全体計画を作成して全教師が協力して行うこと。また、各教科等で道徳教育の指導の内容及び時期を示すこと。
 - ウ 豊かな体験の充実と、道徳教育がいじめの防止や安全の確保につながることを指導計画等に反映すること。
 - エ 道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表し、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携に努めること。
- (2) 「第3章 特別の教科 道徳」に関わって
 - ア 道徳科の目標として、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と示されたことを、道徳科の授業に反映すること。
 - イ 内容項目の4つの視点について、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」と、順序が改められたことを指導計画や道徳科の授業に反映すること。
 - ウ それぞれの内容項目に付記された「A 善悪の判断、自律、自由と責任」などの言葉を、指導計画に反映すること。
 - エ 内容項目については、新たに加えられた項目等を指導計画や道徳科の授業に反映すること。

- オ 指導計画の作成について、「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫」が加えられたことを受け、年間指導計画等に反映すること。
- カ 児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるような指導の工夫があること。
- キ 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動を取り入れること。また、指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法の工夫があること。

第2 指導計画の作成

1 基本的な考え方

道徳教育における指導計画とは、「道徳教育の全体計画」、「道徳科の年間指導計画」及び「道徳科学習指導案」をいう。各学校は道徳教育の充実を図るため、道徳科を道徳教育の要とした「道徳教育の全体計画」「道徳科の年間指導計画」を作成する。

指導計画の作成に当たっての基本的な考え方は次のとおりである。

(1) 道徳教育の指導体制

ア 校長の方針の明確化

校長は、道徳教育の充実・改善を視野におきながら、関係法規や社会的な要請、学校や地域社会の実情、児童の道徳性に関わる実態、家庭や地域社会の期待などを踏まえ、学校の教育目標との関わりで、道徳教育の基本的な方針等を明示する。

イ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の整備

道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する上で中心となり、校長の方針の下、全教師の参画、分担、協力の下にその充実を図る。機能的な協力体制を整えるため、道徳教育推進教師の役割を明確にしておく必要がある。

(2) 指導内容の重点化

ア 各学年を通じて、自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心を育むことに配慮する。

イ 低学年では、挨拶などの基本的な生活習慣を身に付けること、善悪を判断し、してはならないことをしないこと、社会生活上のきまりを守ることに配慮する。

ウ 中学年では、善悪を判断し、正しいと判断したことを行うこと、身近な人々と協力し助け合うこと、集団や社会のきまりを守ることに配慮する。

エ 高学年では、相手の立場を理解して支え合うこと、法やきまりの意義を理解して進んで守ること、集団生活の充実に努めること、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重することに配慮する。

それまでの学年における指導を踏まえ、中学校段階との接続も視野に入れ、特に国家・社会の一員としての自覚を育てることに配慮する。

(3) 豊かな体験活動の充実といじめの防止・安全の確保

ア 教師と児童、児童相互の人間関係を豊かにするために、言語活動の充実を図るとともに、共に語り合う場、学び合う場などを設け、児童を理解する機会や児童相互による道徳教育の機会を増やす。また、教室や校舎、校庭などの物的環境は児童の道徳性を養うことに深く関わることから、環境の整備に努めることが求められる。

イ 児童の道徳性が養われるよう、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動など、様々な体験活動の充実を図る。その際、児童に体験活動を通して道徳教育に関わるどのような内容を指導するのか指導の意図を明確にし、実施計画にも明記する。

ウ 日常生活においては、特に、いじめの防止や安全の確保といった課題についても、道徳性を養うことで、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践することができるようにする。

(4) 家庭や地域社会との連携

ア 学校は、道徳教育の方針を学校通信やホームページなどで家庭や地域社会に伝え、共通理解を図り、協力を得るようにする。

イ 学校は、懇談会、講演会、学校応援団会議など相互交流の場を設定し、家庭、地域社会と連携して道徳教育の充実を図る。

2 指導計画作成の手順・留意事項

(1) 道徳教育の全体計画

ア 基本的な事項を把握する。

- ・教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- ・学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い、児童の実態と課題

イ 校長の方針の下に、学校の教育目標を踏まえ、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標を設定する。

ウ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による推進体制を示す。

エ 道徳科の指導方針を明確にする。

オ 年間指導計画作成の際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫、校長や教頭等の参加、他の教師との協力的な指導の方針を示す。

カ 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育との相互の関連性を明確にし、指導の方針、内容及び時期を示す。

キ 学校の特色ある教育活動や豊かな体験活動、「規律ある態度」等における道徳教育との相互の関連性を明確にし、指導の方針、内容及び時期を示す。

ク 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針を示す。

ケ 道徳教育がいじめの防止や安全の確保等の現代的課題につながるよう指導の方針を示す。

コ 家庭や地域社会、近隣の学校などとの連携や交流の在り方を示す。

サ 計画の実施及び評価・改善に関わる事項を記述する備考欄などを示す。

シ その他

全体計画の別葉として、各教科等、特色ある教育活動、豊かな体験活動の指導内容と道徳科の内容項目との関連を示す一覧表を作成する。全体計画を各学級において具現化し、教師や児童の個性を生かした道徳教育の指針を示す「学級における指導計画」を作成することも考えられる。

(2) 道徳科の年間指導計画

ア 全体計画に基づき、学年ごとの道徳科における指導の基本方針を具体的に示す。

イ 道徳教育の重点目標、各学年の重点目標などを踏まえて、各学年で繰り返し指導する内容項目を選定する。

ウ 内容項目配当時数一覧表を作成する。

エ 主題名を付ける。

オ 重点的な指導や複数時間の関連を図った指導ができるように、指導時期を考えて主題を配列する。

カ 主題構成の理由は、ねらいを達成するために活用する教材の内容を踏まえ簡潔に示す。

キ 展開の大要及び指導の方法を示す。

ク 他の教育活動などにおける道徳教育との関連を示す。

ケ 年間指導計画の改善に関わる事項を記述する備考欄などを示す。

コ その他

校長や教頭などの参加や他の教師の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、「規律ある態度」との関連、「彩の国の道徳」、「家庭用彩の国の道徳」等の活用、複数時間取り上げる内容項目の全体構想などを示す。また、時期、時数、ねらい、教材、学習指導過程、指導方法の変更については、計画の弾力的な取扱いについて配慮する。

(3) 道徳科の学習指導案

ア ねらいを検討する。

イ 児童の実態を踏まえ、指導の重点を明確にする。

ウ 教材を吟味する。

エ 学習指導過程を構想する。

オ その他（次の観点から、多様な学習指導案を創意工夫していく。）

- ・問題解決的な学習の工夫
- ・多様な教材の活用
- ・保護者や地域の人々の参加や協力
- ・道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫
- ・特別活動の多様な実践活動を生かす工夫
- ・校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導
- ・言語活動の充実を図り、言葉を生かし考えを深める工夫
- ・ねらいや児童の実態、教材の特質等に応じた指導方法の工夫

第3 指導計画作成のための資料

1 全体計画

全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。「内容及び時期」「一覧できるもの」については、「別葉」にして加える必要がある。

(1) 全体計画の例



(2) 全体計画作成上の創意工夫と留意点

ア 校長の明確な方針の下に道徳教育推進教師を中心として全教師の協力指導体制を整える。

学校における道徳教育は、人格の基盤となる道徳性を養うものであり、学校の教育活動全体で指導し、家庭や地域社会との連携の下に進めねばならないことから、特に教育課程の管理者である校長が指導力を発揮し、道徳教育推進教師が中心となって全教師が全体計画の作成に積極的に参画するよう体制を整える必要がある。以上から、学校の道徳教育の基本的な方針を全教師に明確に示すため、全体計画の学校教育目標の直下に校長の道徳教育の方針を位置付ける。

イ 道徳教育や道徳科の特質を理解し、教師の意識の高揚を図る。

全教師が、道徳教育及び道徳科の重要性や特質について理解を深められるよう、関係する教育法規や教育課程の仕組み、時代や社会の要請、児童の実態、保護者や地域の人々の意見等の基本的把握事項について十分研修を行い、教師自身の日常的な指導の中での課題が明確になるようにする。そのことを通して、全体計画の作成に関わる教師の意識の高揚を図ることができ、その積極的な活用につなげることができる。

ウ 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにする。

全体計画の作成に当たっては、学校や地域社会の実態を踏まえ、各学校の課題を明らかにし、道徳教育の重点目標や各学年の指導の重点を明確にするなど、各学校の特色が生かされるよう創意工夫することが大切である。第1章総則第4の3の(2)には、今日的課題と学年段階ごとの発達上の課題を踏まえて重点的な指導を行う観点が示されている。各学校においては、それぞれの実態に応じて、学年段階ごとに第3章の第2の内容に示す内容項目の指導を通して、全体としてこれらの観点の指導が充実するよう工夫する必要がある。

エ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする。

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を、道徳科の内容との関連で捉え、道徳科が要としての役割を果たせるよう計画を工夫することが重要である。

また、学校教育全体において、豊かな体験活動がなされるよう計画するとともに、体験活動を生かした道徳科が効果的に展開されるよう道徳科の年間指導計画等においても創意工夫することが大切である。

オ それぞれの学級の特色を生かした学級における指導計画を作成する。

学校における道徳教育を効果的に行い、児童が自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする力を育てるには、学級における指導を充実させることが不可欠である。学級を担任する教師は全体計画に基づいて学級における指導をどのように行うのかを具体的に計画し、見通しをもって指導に当たることが大切である。

カ 家庭や地域社会、学校間交流、関係諸機関等との連携に努める。

全体計画を具現化するには、保護者、地域の人々の協力が不可欠である。また、近接の幼稚園や保育所、小・中・高等学校、特別支援学校などとの連携や交流を図り、共通の関心の下に指導を行うとともに、福祉施設、企業等との連携や交流を深めることも大切であり、それらが円滑に行われるような体制等と工夫することが求められる。その際、学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ることが大切である。

キ 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する。

全体計画は、学校における道徳教育の基本を示すものである。したがって、頻繁に変更することは適切ではないが、評価し、改善の必要があれば直ちにそれに着手できる体制を整えておくことが大切である。また、全教師による一貫性のある道徳教育を推進するためには、校内の研修体制を充実させ、全体計画の具現化や評価、改善に当たって必要となる事項についての理解を深める必要がある。

(3) 全体計画の別葉例（各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期）

重点内容項目との関連や各教科等の指導計画を作成する際の道德教育の観点を記述する。また、各教科等の方針に基づいて進める道德性の育成に関わる児童の内容及び時期を整理して示す。

※ 以下「ア、イ」を踏まえ、どちらかを各学校は作成していく。

ア 指導時期から見た別葉例

指導時期ごとにまとめた一覧表とすることで、道德科の授業を行うにあたり、本時の内容項目について、他の教科領域においてどのような学習を行ってきたかの把握ができ、児童の実態把握につながる。また、道德科の授業を行うにあたり、道德教育としては取り扱う機会が十分でない道德的価値に関わる指導を補うことや、指導をより一層深めること、相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意して指導に臨む際の日安とすることができる。

道德教育全体計画別葉 道德の時間と各教科、領域の指導内容と時期との関連(1年) ××市立△△小学校

低学年の重点目標		・生命を大切にする【D生命の尊さ】 ・友だちと仲良く助け合う【B友情,信頼】 ・よいことと悪いことを区別してよいことを行う【A善悪の判断, 自律, 自由と責任】 ・約束やきまりを守る【C規則の尊重】			
内容\月	4月	5月	6月	7月	
1年生にかかわる学校行事	入学式 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】 身体測定 【A節度, 節制】【D生命の尊さ】 避難訓練 【A善悪の判断, 自律, 自由と責任】 【D生命の尊さ】	新体力テスト 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 家庭訪問 【C家族愛, 家庭生活の充実】	プール開き 【C規則尊重】【D生命の尊さ】	授業参観 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】	
特別の教科	「学校のためからの」 【C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】 「えがおであいさつ」 【B礼儀】	「わたしも手つたうよ」 【C家族愛, 家庭生活の充実】 「かくれんぼ」 【C規則の尊重】 「たかしくんの1日」 【A節度, 節制】 「さんぽ」 【D自然愛護】	「マラソン」 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 「塙保己一」 【B親切, 思いやり】 「たびに出で」 【B礼儀】 「おそうじ大すき」 【C勤労, 公共の精神】	「黄色いペンチ」 【A節度, 節制】 「虫が大すき」 【D自然愛護】	
教科	国語	「なかよし」 【B友情, 信頼】 「みんなとたのしく」 【B礼儀】	「おはなしききたいな, よみたいな」 【B礼儀】 「はなしましよ, ききましよう」 【B礼儀】	「けむりのきしや」 【B親切, 思いやり】 【D感動, 畏敬の念】 「なにか, かくれているのでしょうか」 【D自然愛護】	「おおきなかな」 【B友情, 信頼】 【C勤労, 公共の精神】
	算数	「10までのかず」 【A節度, 節制】	「なんぼんめ」 【C規則の尊重】	「ふえたりへったり」 【C規則の尊重】 「たしざん(1)」 【C規則の尊重】	「ひきざん(1)」 【C規則の尊重】
	生活	「ともだちいっぱい」 【B友情, 信頼】 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】 「がっこうたんけん1」 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】 【B感謝】	「あんぜんなるあきかた」 【A節度, 節制】 「はるのあそび」 【B友情, 信頼】 【D自然愛護】 「たねまきのじゅんび」 【D自然愛護】 「たねまき」 【D自然愛護】 「ちいさなめ」 【D自然愛護】	「がっこうたんけん2」 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】 「まいにちのせわ」 【D自然愛護】 「がっこうのいきもの」 【D自然愛護】 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】	「なつのおそび」 【B友情, 信頼】 【D自然愛護】 「きれいなはな」 【D自然愛護】 「いきものさがし」 【D自然愛護】 「いきものだいすき」 【D自然愛護】
	音楽	「ひらいたひらいた」 【D自然愛護】 うたでなかよしになろう 【B友情, 信頼】 「うたでさんぽ」 【B友情, 信頼】	「さんぽ」 【D生命の尊さ】	「ぶんぶんぶん」 【D自然愛護】 「かたつむり」 【D自然愛護】	「うみ」 【D自然愛護】
	図工	すきなものいっぱい 【B友情, 信頼】	しぜんとなかよし 【B友情, 信頼】 【D自然愛護】 ひかりのくにのなかまたち 【D感動, 畏敬の念】		
	体育	「体ほぐし・多様な動き」 【B友情, 信頼】 「かけっこ・リレー」 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 【B友情, 信頼】 【C規則の尊重】	「リズム遊び」 【B友情, 信頼】	「鬼遊び・ボール投げ遊び」 【B友情, 信頼】 【C規則の尊重】 「固定施設」 【A希望と勇気, 努力と強い意志】	水遊び 【A節度, 節制】 【A希望と勇気, 努力と強い意志】
	地域・家庭との連携	入学式 避難訓練	家庭訪問		授業参観

イ 内容項目から見た別葉例

内容項目ごとにまとめた一覧表とすることで、当校の重点目標に関わる内容項目の把握が明確となる。

さらに各教科等において学習する機会の少ない内容項目を道徳科に補充したり、各教科等における道徳教育を道徳科により効果的に深化したりするなど全教育活動における道徳教育と道徳科の関連を深めることができる。

また各教科等において、教師が道徳の内容項目を意識して指導することは大切であり、指導の意図を明確にしておくことが必要である。

道徳教育全体計画別葉 道徳科と各教科等の内容項目と時期の関連 内容項目別(6年)

高学年の 重点目標	・美しいものに感動する心を持ち自他の生命を尊重する。 【D生命の尊さ】【D感動、畏敬の念】
	・思いやりの心を持ち、相手の立場にたって行動する。 【B親切、思いやり】
	・誠実で責任ある行動をとる 【A正直、誠実】
	・社会の一員として公共のために役立つとする。 【C勤労、公共の精神】

××市立△△小学校

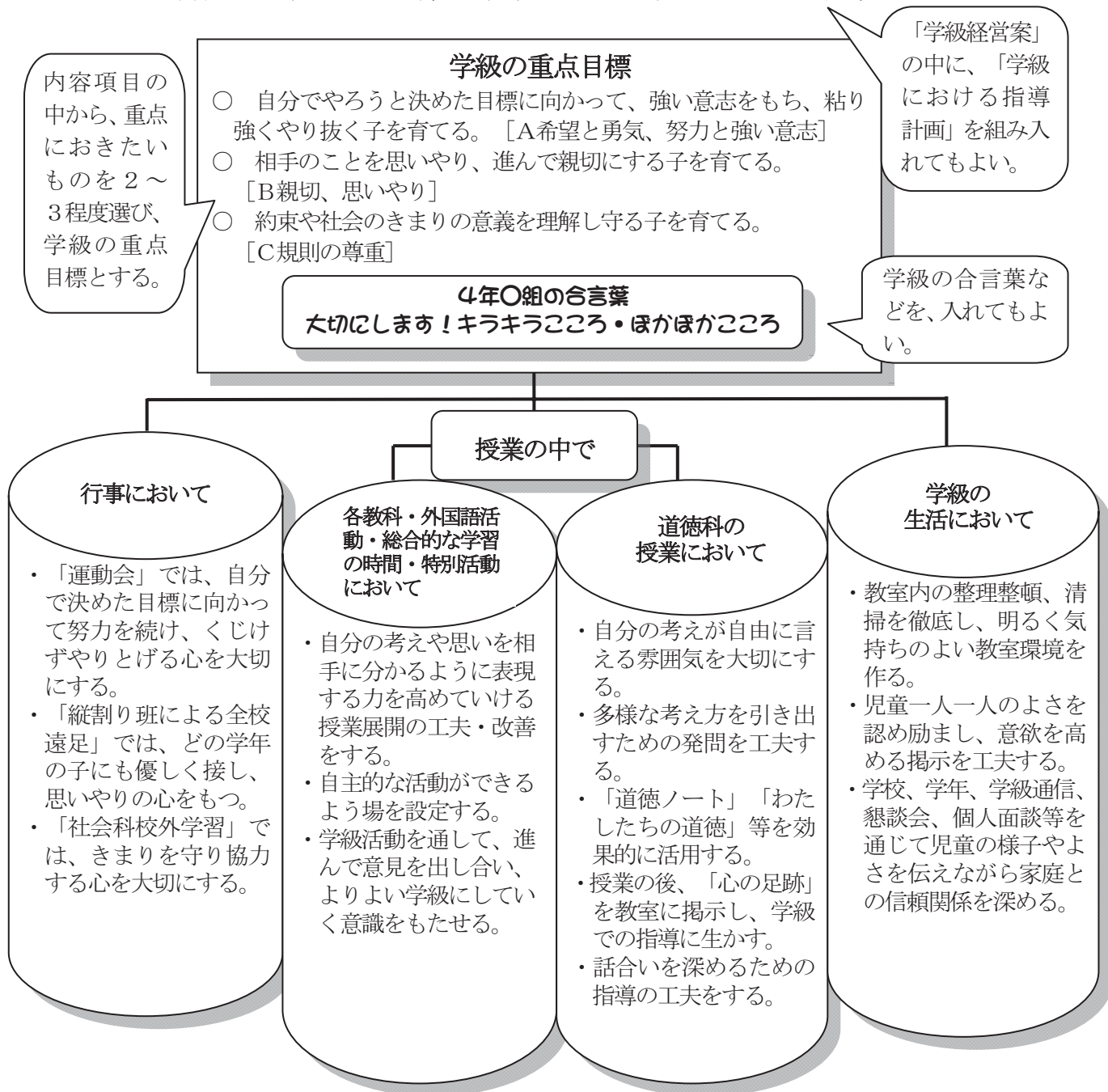
内容項目\各教科等	道徳	特活			教科		
		学級活動(1)	学級活動(2)	クラブ 児童会 委員会	国語	社会	算数
A 主として 自分自身 に関する こと	善悪の判断, 自律, 自由と責任	自主学习ノート[5月] うばわれた自由[1月]	学級の組織をつくらう[4月]				
	正直, 誠実	由美の交換ノート[4月] 手品師[11月]					
	節度, 節制	心のプレーキ「くつそろえ」[5月]		家庭学習の工夫[6月] 楽しい給食交流[7月] 心の健康[2月]			
	個性の伸長	日本女性水上飛行機操縦士第1号-西崎キク[4月]		クラブ開始[5月] クラブ発表会[2月]	「ぼくの世界, きみの世界」[10月]		
	希望と勇気, 努力と強い意志	道ひとすじに-荻野吟子-[4月] 父の思いを受け継いで[3月]	学級活動の年間計画を立てよう[5月] 読書集会の計画を立てよう[10月] 友達発表会の計画を立てよう[11月] 今年目標発表会[1月] 集会の計画を立てよう[2月]	将来のわたし[11月] 卒業までの計画[1月]	『迷う』[5月] 「伊能忠敬」[2月] 「二十一世紀に生きる君たちへ」[3月]		
	真理の探究	盲目の学者-堀保己一-[6月] 天からの手紙[11月]	夏休みの体験発表会をしよう[9月] 卒業文集の内容を決めよう[12月]	読書の範囲を広げよう[10月]	リリーススピーチをしよう[4月] 学校案内のパンフレットを作ろう[5月] 「日本語をコンピューターで書き表す」[5月] 「学んだことを生かして調べよう」[6月] 随筆を書こう[7月] 「パネルディスカッションをしよう」[9月] 「言葉カードを作ろう」[10月] 「ぼくの世界, きみの世界」[10月] 「意見文を書こう」[10月] 俳句・短歌を作ろう[11月] 「表現方法を選んで書こう」[1月] 「伊能忠敬」[2月] 「先輩からの手紙-一六年間をふり返って」[3月]	「江戸の文化と新しい学問」[9月]	対称な図形[4月] 分数×分数[5月] 分数÷分数[5月] 文字と式[6月] 比とその利用[6月] 図形の拡大と縮小[7月] 速さ[9月] 比例と反比例[10月] 円の面積[10月] 小数や分数の計算のまとめ[11月] 立体の体積[11月] およその形と大きさ[11月] 場合を順序よく整理して[11月] 資料の調べ方[12月] 量の単位[1月]

(4) 全体計画の別葉例（学級における指導計画）

学級における指導計画は、学級における道徳教育を充実させるためのものである。全体計画を児童や学級の実態に応じて具体化し、学級において教師や児童の個性を生かした道徳教育を展開するための指針である。作成に当たっては、学校や学年の道徳教育の方針を受け、学級担任が創意工夫する。

〇〇市立〇〇小学校
担任 〇〇〇〇

平成〇〇年度 第4学年〇組 学級における指導計画



	1学期	2学期	3学期
反省	「道徳が好き」という子供たちの心を大切に、毎時間授業を行ってきた。自分の考えを相手に伝わるよう発言しようという子が増えた。クラスの合言葉を大切にして子供たちに豊かな心を育みたい。		

2 年間指導計画

年間指導計画は、道徳科の指導が全体計画に基づき、児童の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された、全学年にわたる年間の指導計画である。

(1) 年間指導計画の意義

- ア 6年間を見通した計画的発展的な指導を可能にする。
- イ 個々の学級において道徳科の学習指導案を立案する拠り所となるものであり、道徳科の授業は年間指導計画に基づいて実施することが基本である。
- ウ 学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

(2) 年間指導計画の内容

- ア 各学年の基本方針を具体的に示す。
- イ 各学年の年間にわたる指導の概要を示す。
(指導の時期、主題名、ねらい、教材、主題構成の理由、学習指導過程と指導の方法、他の教育活動等における道徳教育との関連、その他)

(3) 学年別配当時間数一覧

年間の道徳科の時間に、各内容項目を何時間扱うのか、学年の重点目標や道徳教育の重点目標に対応して時間を配当し、一覧表で示す。

〔学校の道徳教育の重点内容項目が [A 正直、誠実] [B 親切、思いやり] D 生命の尊さ〕、
〔第5学年の重点内容項目が [A 個性の伸長] [B 友情、信頼] の場合の学年別配当時間数一覧例〕

視点	内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
A まじりて 良自身を 関する	善悪の判断、自律、自由と責任	2	2	2	2	1	2	11
	正直、誠実	2	3	2	2	2	2	13
	節度、節制	2	2	2	1	2	1	10
	個性の伸長	1	1	2	2	3	1	10
	希望と勇気、努力と強い意志	2	2	1	2	1	1	9
	真理の探究					1	2	3
B まじりて 人との 関	親切、思いやり	3	3	3	3	3	2	16
	感謝	1	1	2	2	2	1	11
	礼儀	2	2	2	1	2	1	10
	友情、信頼	2	1	1	2	3	2	11
と	よりよく生きる喜び					2	1	3
合計		34	35	35	35	35	35	209

※ 太線で囲ってあるのが、重点的に指導する内容項目です。

(4) 学年別主題配列一覧表（第5学年の例）

主題配列一覧表は年間指導計画のいわば目次であり、年間を見通す際に活用することができる。

学期	月	週	主題名	内容項目	教材名<出典>	備考
1 学期	4 月	1	節度ある生活	A節度、節制	流行おくれ <小学校読み物資料とその利用1>	備考欄には、 変更をした場合 の変更点や理由、 授業後に気付いた ことや改善点など を書き加えて、 次年度の年間指導 計画作成の際に参 考にできるように する。
		2	正しいと思うことを	C公正、公平、社会正義	あなたも同じ… <彩の国の道徳>	
		3	自分の心に誠実に	A正直、誠実	手品師 <小学校道徳の指導資料とその利用1>	
	5 月	1	相手の立場や心を理解する難しさ	B親切、思いやり	くずれ落ちた段ボール箱 <小学校道徳の指導資料とその利用4>	
		2			最後のおくり物 <私たちの道徳>	
		3	かけがえのない命	D生命の尊さ	わたしって何 <彩の国の道徳>	

(5) 年間指導計画の例

学年の基本方針		1 様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実を図る。 2 教材を通して、自分との関わりの中で考え、自己の生き方について考えを深める。		
月	主題名	節度ある生活	内容項目	A節度、節制
4	ねらい	登場人物が置かれた状況に自分を重ねて考えることを通して、生活習慣の大切さや自分の生活を見つめ直し、自ら節度を守り節制に心掛けようとする態度を育てる。		
	教材名	流行おくれ	出典	読み物資料とその利用 「主として自分自身のこと」
	主題構成の理由	不規則な生活になりがちな児童も少なくない実態の中で、生活を振り返り、自ら節度を守り節制に心掛けることについて、主人公を通して考えることの意義は大きい。		
	学習指導過程	1 児童の流行に関することについて話し合う。 2 教材「流行おくれ」を読んで話し合う。 (1) みどりと社会科見学について話をするまゆみは、どんな気持ちだったか。 (2) 母にたしなめられたまゆみはどんなことを考えたか。 (3) わたるに「ゲームの本を返して」と言われたまゆみは、どんな気持ちだったか。 (4) しーんとした自分の部屋を見回すまゆみに、あなたは何と言葉をかけますか。それはなぜですか。 3 節度、節制について、心掛けていることや実行している事柄について、自分の生き方について振り返るとともに、これからの生き方について考える。 4 校長の話聞く		
	他の教育活動との関連	学習規律の指導（常時）、学級活動（2）基本的な生活習慣との形成		
	備考	校長が説話を行う。		
	授業後の改善点	・親の気持ちを知るために、学校公開日に、保護者参加型の授業で取り組むとよい。		
	主題名	公德を大切にすること	内容項目	C規則の尊重
	ねらい	様々な立場から権利や義務について考えることを通して、皆が気持ちよく過ごすための在り方を理解し、自他の権利を尊重し合おうとする態度を育てる。		
	教材名	お客様	出典	小学校道徳 読み物資料集（文科省）
	主題構成の理由	人が大勢集まる場所で、自他の権利を尊重し合い、互いに気持ちよく過ごせるためにはどのようにしたらよいかを改めて考えたい。		
	学習指導過程	1 私たちの道徳を活用し、権利、義務という言葉について知る。 2 教材「お客様」を読んで話し合う。 (1) わたしが、係の人の注意を快く思わなかったのはどんな気持ちからか。 (2) わたしが「何か、変だ」と思ったのはどんな考えからか。 (3) ショーが終わってから、わたしはどんなことを考えたか。 3 周りの人の権利を尊重するために、きまりやマナーを守ることについて、これからの自分の生き方について考える。 4 教師の説話を聞く。		
	他の教育活動との関連	林間学校		
	備考	私たちの道徳「権利とは、義務とは何だろう」		
授業後の改善点	・二つの立場から「権利と義務」について考えさせるために、係の人と客の役割演技を取り入れるとよかった。			

3 学習指導案

(1) 学習指導案作成のポイント

- ・ 年間指導計画に位置付けられた主題を指導する。
- ・ 児童や学級の実態に即して、教師自身の創意工夫を生かして作成する。
- ・ 何をどのような順序、方法で指導し、評価し、主題に関連する本時以外の指導にどのような生かすかなど、学習指導の構想を表現する。

- | | | |
|---|--------------------------|--|
| 1 | 主題名 | ・ 内容を明確にし、簡潔な表現にする。
・ 年間指導計画における主題名を記述する。 |
| 2 | ねらい | ・ 年間指導計画を踏まえて記述する。 |
| | 教材名 | ・ 出典を明らかにする。 |
| 3 | 主題設定の理由 | |
| | (1) ねらいや指導内容について | ・ 学習指導要領を踏まえて、ねらいや指導内容について教師の捉え方を記述する。
・ 学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の第2節内容項目の指導の観点、内容項目の概要及び指導の要点を参考に記述する。 |
| | (2) これまでの学習状況及び児童の実態について | ・ ねらいとする道徳的価値に関連する児童のこれまでの学習状況や実態、教師の願いを記述する。
・ 記述に当たっては、児童の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点から捉えるようにする。 |
| | (3) 教材の特質や活用方法について | ・ 使用する教材の特質を記述する。
・ 教材を生かす具体的な活用方法を記述する。 |
| 4 | 学習指導過程 | ・ 導入、展開、終末の段階に区分する。
・ 児童の学習活動、主な発問と予想される児童の発言、指導上の留意点、指導の方法、評価の視点などを指導の流れに即して記述する。 |
| | 導入 | ・ ねらいとする道徳的価値への方向付けや主題に関わる問題意識や教材の内容に興味・関心をもたせる。 |
| | 展開 | ・ 児童が多様な考え方や感じ方に接することができるように、他者と対話したり協働したりすることによって、学び合う。
・ 価値理解、人間理解、他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力を育む。
・ 自分自身の生き方をじっくりと見つめ、夢や希望をもったり、生き方の課題を考えたりする。 |
| | 終末 | ・ 道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、実現することのよさや難しさなどを確認する。
・ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。
・ 学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。 |
| 5 | 他の教育活動との関連 | ・ 特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連、事前や事後指導の工夫について記述する。 |
| 6 | 評価の視点 | ・ 物事を多面的・多角的に考えている様子。
・ 道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子。 |

(2) 指導方法の工夫

- ・ 問題解決的な学習などを取り入れ、課題を自分との関わりで見つめ、考え、話し合うことを通して、児童一人一人が課題に対する答えを導き出せるようにする。
- ・ 体験的な学習などを取り入れ、教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技や実際に具体的な道徳的行為をすることによって、道徳的価値の意義について考えを深められるようにする。

第6学年○組 道徳科学習指導案

平成○○年○月○日（○）第○校時

授業者 教諭 ○○○○○

- 1 主題名 謙虚な心、広い心で 内容項目 [B 相互理解・寛容]
- 2 ねらい 主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、謙虚な心をもつことの大切さを理解し、広い心で相手の立場や考えを受け止めようとする態度を育てる。
教材名 「友とのトラブル」(出典：「彩の国の道徳」(高学年)『夢にむかって』県教委 H22.2)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」である。

人は弱いものである。自分の立場を守るために、つい相手の失敗や過ちを責めたり、自分とは違う意見や立場を受け入れることができなかつたりしてしまう。相手に寛容な心をもって接するためには、自分もそのような弱さをもっていることに気づき、自分は成長の途中であり失敗することもあるということを自覚するなどして、自分自身を謙虚に受け止め、相手の過ちを許す態度をもつことが大切だと考える。また、自分以外の相手から学ぶような広い心をもつことも重要である。

指導に当たっては、自分と異なる意見や立場を尊重することで、相手の過ちなどに対しても自分にも同様なことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処しようとする態度を育てることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、1学期の全校遠足の話合いの際、思いが強いあまりに自分の考えと違う相手の意見を受け入れられないことや一方的に相手を責めてしまうことがあった。しかし、2学期の運動会やおまつりなど、友達と共に行事を乗り越えていく中で、互いに意見を出し合い、よいところを生かしながらクラスをまとめていくことで達成感を味わえた。

また、各教科・領域の学習で意図的に話合い活動の時間を設けることで、自分と友達の意見を比べ、友達の考えのよいところを取り入れながら自分の考えを深めることができるようになった。そこで、この授業を通して、さらに謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重できるような態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、「加奈」が携帯電話に振り回され、自分の都合だけで行動してしまう話である。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

①唯の話を聞こうともせず、加奈が怒っている場面。

ここでは、相手の気持ちを考えず、感情的に怒っている加奈の気持ちに共感させる。

②亜由美が加奈を訪ねて来た場面。

ここでは、亜由美の話を聞いた加奈がどんなことに気付いたのかを考えさせる。

③「わたし、唯の家まで行ってくる。」と言って、唯の家の前まで来た場面。

ここでは謙虚な心や広い心をもって相手と接することの大切さについて考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導	1 相手の都合で破られた		・身近に起こりそうな出来事について

入	<p>時の気持ちを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊ぶ約束を相手の都合で破られたら、許せる？許せない？ 	<p>(許せる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 突然、用事ができることもあるから仕方がない。 <p>(許せない)</p> <ul style="list-style-type: none"> 約束したのに許せない。 	<p>て尋ね、ねらいとする道徳的価値について問題意識がもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを自由に発表できる雰囲気を作る。
展	<p>2 教材「友とのトラブル」の読み聞かせを聞き、加奈の心の変化を中心に話し合う。</p> <p>(1) 唯のことが許せないでいる加奈はどんな気持ちでしょう。</p> <p>(2) 亜由美の話を聞いて、加奈はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>(3) 唯の家の前に立ち、呼吸を整えている加奈はどんな気持ちでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1時間も遅れてくるなんて許せない。 遅れてくるなら、連絡してくれればいいじゃない。 遅れてきた唯が悪いんだから謝らない。 唯の話を聞こうともしないで一方的に怒ってしまった。 謝りに行こう。 唯にきちんと謝ろう。 唯の気持ちも考えず、一方的に怒ってしまった。 唯の話を聞いて謝ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 加奈の気持ちになって問題意識をもちながら範読が聴けるような言葉がけをする。 携帯電話を手にし、相手の都合も考えず感情的に怒っている加奈の気持ちに共感させる。 グループで話し合い、多様な考えを引き出す。唯の気持ちを考えず行動してしまったことに気付いていく加奈の姿から、広い心で相手を受け入れることの大切さを考えさせる。 ☆揺れ動く加奈の心の内を話し合う中で、加奈に託して自分の考えを表出している。 父の言葉の重みを感じながら、唯の気持ちを受け入れようと態度で示している加奈の思いを考えさせる。
開	<p>3 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と分かり合うためにはどんなことが大切なのでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことだけではなく、相手のことも考えて行動することが大切だ。 みんなが自分と同じ気持ちではない。色々な人の考えを聞くことが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 ☆これまでの自分を振り返りながら相手の立場や考えを大切にする意義について考えている。
終末	<p>4 校長先生の話聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> じっくりと話がきける雰囲気作りをする。 広い心をもち謙虚に行動していこうという意欲がもてるように余韻をもって終わりにする。

5 他の教育活動との関連 一略一

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- 謙虚な心をもち相手の立場や考えを受け止める意義について自分との関わりで考えている。

7 板書計画 一略一

第4学年○組 道徳科学習指導案

平成○○年○月○日（○）第○校時
授業者 教諭 ○○○○○

- 1 主題名 信頼する心 内容項目 [A 友情・信頼]
- 2 ねらい 主人公が直面する問題の解決策について根拠を明確にして話し合うことを通して、友達としての在り方についての考えを深め、友達と互いに信頼し合い友情を深めていこうとする態度を育てる。
教材名 「絵はがきと切手」 （出典：「道徳の指導資料とその利用3」文部省）

3 主題設定の理由（略）

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導 入	1 友達がいてよかった と思うことを発表する。 ・どんな時に友達がいて よかったと思いますか。	・困った時に助けてくれた 時。 ・励ましてくれた時。	・ねらいとする道徳的価値への 方向付けをするために、友達 がいてよかったと思うことを 想起させる。
展 開	2 教材「絵はがきと切 手」の読み聞かせを行 う。 3 道徳的な問題点は何 かを話し合う。 (1) ここでは何が問題に なっていますか。 (2) 正子は、何と何で迷 っていますか。	・ひろみが正子に定形外郵 便物を送ってしまい、料 金不足になってしまった こと。 ・返事を書くのに、母には 「お礼だけ書いた方がいい かもしれない」と言われ、 兄には「きちんと教えて あげた方がいい」と言わ れたことで、どうしよ うか迷っている。	・教材は、結末がわからないよ うにするため、最後まで読み 聞かせをしない。 ・教材の何が問題となってい るのかを明らかにすることで、 どの児童も同じように問題意 識をもつことができるように する。 ・主人公が何に迷っているのか を考え、その問題の解決をみ んなで考えていくようにする。

友達だったらあなたはどうしますか。

<p>展 開</p>	<p>4 よりよい生き方のできる解決策を構想する。 ・正子はどうしたらよいでしょうか。</p> <p>・自分ならどうしますか。</p>	<p>【伝えない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろみに嫌われそうだから。 ・ひろみが嫌いで料金不足のことを伝えていると思われるかもしれないから。 <p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も料金不足の葉書を送っていたらきちんと伝えてほしいから。 ・ひろみがこのまま定形外郵便の料金のことを知らずに違う誰かに送ってしまったら、笑われてしまう。だったら親友の私がきちんと伝えてあげた方がいい。 <p>・自分なら、嫌われたくなくて伝えられない。 ・自分なら、自分も知らないままは嫌だから、伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠を伝えるようにさせる。 ・考えの根拠を自分から言えない児童には、教師が切り返し引き出す。 <p>☆「伝えない」または「伝える」と考える根拠を基にしながら友情について多面的に話し合っている。</p> <p>・「自分ならどうする」と問うことによって、他人事ではなく自分事として考えられるようにする。</p>
<p>終 末</p>	<p>5 今までの自分自身を振り返り、学んだことが今後どのように生かすことができるのかを考える。</p> <p>・信頼し合える友達になるためには、どうしたらよいのでしょうか。それは、今後の生活でどのように生かせるのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでも、お互いを信じてきちんと伝え合うことが大切だ。 ・自分が間違えた時には友達にも伝えてほしいし、友達にもきちんと伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を取り入れることによって、児童一人一人が道徳的価値の自覚を深められるようにする。 <p>☆友情に関して自分の体験を振り返り、今後に向け自分の考えを見直している。</p>

5 他の教育活動との関連 一略一

6 評価の視点 一略一

7 板書計画 一略一

第4 教育課程を充実させるために

1 校長の方針の明確化とは

学校の道德教育の基本的な方針を全教師に明確に示す。どのような子供を育成するのかを明らかにし、それを実現するための組織をつくる。このことにより、以下の効果が期待できる。

- (1) 全教師が道德教育や道德科の重要性について認識を深めることができる。
- (2) 学校の道德教育の重点や推進すべき方向について共通理解し、具体的な指導が行える。
- (3) 道德教育や道德科の諸計画を作成、展開し、その改善充実を図っていく上での拠り所となる。

2 道德教育推進教師の役割とは

道德教育推進教師とは、道德教育の目標を踏まえ、道德教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道德教育の推進を主に担当する教師である。

役割としては、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育を推進する上での中心となり、全教師の参画、分担、協力の下に、その充実が図られるよう働きかけて行くことが望まれる。

なお、道德教育推進教師については、その職務の内容に鑑み、校長が適切に任ずるとともに、学校の実態に応じて人数等に工夫を加えるなどの創意工夫した対応が求められる。

(1) 考えられる8つの役割

- ア 道德教育の指導計画の作成に関すること
- イ 全教育活動における道德教育の推進、充実に関すること
- ウ 道德科の充実と指導体制に関すること
- エ 道德用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道德教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ 道德科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- キ 道德教育の研修の充実に関すること
- ク 道德教育における評価に関すること

(2) 道德科の指導体制を充実させるための役割例

- ア 特に効果的と考えられる場合は、実際の指導において他の教師などの協力を得るなど学校全体の取組を促進していく。(推進者)
- イ 各担当者の積極的な取組を後方から支援し、各担当者がすすんで道德科の授業を実施しやすい環境を整える。(支援者)
- ウ 道德科の授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役となり、専門的な知識をもって情報を提供し、助言する。(助言者)
- エ 校長の方針の下、各担当者が力を発揮できるよう、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の取組を調整する。(調整役)

3 道徳的実践につながる授業には

道德科の特質を生かした、「考える道徳」「議論する道徳」の実施

- (1) 道徳性を養うために行う。
 - ア 道德教育の要としての役割を果たす。
 - イ 教師の一方的な価値観の押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないようにする。
 - ウ 指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をする。
- (2) 道徳的価値の意義及びその大切さの理解をする。
- (3) 道徳的価値の理解を基に物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。
- (4) 自己の生き方についての考えを深めることを強く意識させる。
- (5) 道德科の特質を生かした計画的・発展的な指導を行う。
 - ア 学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補う役割(補充)
 - イ 道徳的価値の意味やそれと自己との関わりについて一層考えを深める役割(深化)
 - ウ 道徳的価値に関わる諸事象を、捉え直したり発展させたりして、児童に新たな感じ方や考え方を生み出すという統合としての役割(統合)
- (6) 児童が道徳的価値について主体的に考えることができるよう問題解決的な学習、体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導を行う。

第5 道徳性を養うために行う道徳科における学習

道徳科の目標を、「第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と、ある。

この目標に迫るために、以下の道徳の特質を踏まえた授業を計画的・発展的に行い、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養うことが求められている。

1 道徳的諸価値について理解する

道徳的価値とは、児童がよりよく生きるために必要とされるもの、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。児童が将来、様々な場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要となる。具体的には、価値理解、人間理解、他者理解を深める学習とする。

- ・価値理解：内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。
- ・人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解すること。
- ・他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

2 自己を見つめる

具体的には、これまでの自分の経験やその時の考え方、感じ方と照らし合わせて、更に考えを深めることである。このような学習を通して、道徳的価値の理解とともに自己理解を深める。

- ・自己理解…人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして考えたり、感じたりすること。

3 物事を多面的・多角的に考える

具体的には、児童が多様な考え方や感じ方に接することができるようにするために、児童が多様な価値観の存在を前提にして他者と対話したり協働したりする学習となっていること。

4 自己の生き方についての考えを深める

児童が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことができるようにすること。

5 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養うことである。具体的には、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質を育てること。

- ・道徳的判断力：様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。
- ・道徳的心情：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。
- ・道徳的実践意欲と態度：道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動を取ろうとする傾向性。

小・中学校学年段階ごとの内容項目一覧表

	小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)	小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)
A. 主として自分自身に関すること	<p>積極的判断、自律、自由と責任</p> <p>正直、誠実</p> <p>前向き、前向き</p> <p>個性の伸長</p> <p>希望と勇気、努力と強い意志</p> <p>真理の探究</p>	<p>(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。</p> <p>(2) うそをついたりごまかしをしないうで、素直に伸び伸びと生活すること。</p> <p>(3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしない、規則正しい生活をすること。</p> <p>(4) 自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。</p> <p>(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。</p>	<p>(1) 自由を大切に、自由的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、明るく心で生活すること。</p> <p>(3) 安全に気を付けること、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、態度を守り習慣化すること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知り、短所を改めて長所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を設定し、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけず努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p>	<p>(1) 自律の精神を重んじ、自由的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、態度を守り習慣化し、安全で健康のある生活をすること。</p> <p>(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばし、充実した生活を送ること。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて進んでいくこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すことと努めること。</p>
	<p>親切、思いやり</p> <p>感謝</p> <p>礼儀</p> <p>友情、信頼</p> <p>相互理解、寛容</p>	<p>(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。</p> <p>(7) 家族など日常生活を支えてくれている人々や現在の生活を振り返り、感謝の気持ちを持って接すること。</p> <p>(8) 挨拶の大切さを知り、誰に対しても敬意をもって接すること。</p> <p>(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。</p> <p>(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p>	<p>(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や友達からの多くの人々の支え合いや助け合いによって成り立っていることに感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場合をわきまえて、礼儀正しく敬意をもって接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり助け合ったり、異性についても理解し、人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p>	<p>(6) 思いやりの心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。</p> <p>(7) 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとること。</p> <p>(8) 友達の考えを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに助け合い、認め合うとともに、異性についての理解を深め、怒りや嫉妬も経験しながら人間関係を築いていくこと。</p> <p>(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつたことを理解し、寛容の心をもつて謙虚に他人に学び、自らを高めたいこと。</p>
C. 主として集団や社会との関わりに関すること	<p>規則の尊重</p> <p>公正、公平、社会正義</p> <p>勤労、公共の精神</p> <p>家族愛、家庭生活の充実</p> <p>よりよい学校生活、集団生活の充実</p>	<p>(10) 約束やまじりを守り、みんなが安心して生活すること。</p> <p>(11) 自分の好き嫌いをこらさず守り、みんなのために働くこと。</p> <p>(12) 働くことの大切さを知り、みんなのために働くこと。</p> <p>(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いやお世話をすること。</p> <p>(14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。</p> <p>(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p>	<p>(12) 法やまじりの意義を理解し、それらを守ることで守られること、他の権利を大切にすること。</p> <p>(13) 誰に対しても差別することなく、公正、公平な態度で接すること。</p> <p>(14) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。</p> <p>(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで働くこと。</p> <p>(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合ってよりよい学級や学校をつくること。</p> <p>(17) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。</p>	<p>(10) 法やまじりの意義を理解し、それらを守ることで守られること、他の権利を大切にすること。</p> <p>(11) 正義と公平を重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。</p> <p>(12) 社会参加の意識と社会通約の自覚を高め、公共の精神をもつてよりよい社会の実現に努めること。</p> <p>(13) 勤労の尊厳や意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。</p> <p>(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもつて充実した家庭生活を築くこと。</p> <p>(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい学級をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実を目指すこと。</p> <p>(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもつて郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p> <p>(17) 豊かな生活の継承と新しい文化の創造に貢献すること、我が国としての自覚をもつて国を愛し、国家及び社会の発展者として、その発展に努めること。</p> <p>(18) 世界の平和と人権の発展に寄与すること、国際理解、国際貢献</p>
	<p>伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度</p> <p>国際理解、国際貢献</p> <p>生命の尊さ</p> <p>自然愛護</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p>	<p>(16) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。</p> <p>(17) 他国の文化や生活に親しみ、関心をもつこと。</p> <p>(18) 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。</p> <p>(19) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動物植物を大切にすること。</p> <p>(20) 美しいものや素晴らしいものに感動し、心が動くこと。</p>	<p>(17) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。</p> <p>(18) 他国の文化や生活について理解し、日本人としての自覚をもつて国際理解に努めること。</p> <p>(19) 生命の尊さについて、その脆弱性や有限性も含めて理解し、自分自身の生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさを知り、自然環境を大切にすること。</p> <p>(21) 美しいものや素晴らしいものに感動する心や人間の力を最大限に活用しようとする心をもつこと。</p> <p>(22) よりよく生きる喜びを感じること。</p>	<p>(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもつて郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p> <p>(17) 豊かな生活の継承と新しい文化の創造に貢献すること、我が国としての自覚をもつて国を愛し、国家及び社会の発展者として、その発展に努めること。</p> <p>(18) 世界の平和と人権の発展に寄与すること、国際理解、国際貢献</p> <p>(19) 生命の尊さについて、その脆弱性や有限性も含めて理解し、自分自身の生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさを知り、自然環境を大切にすること。</p> <p>(21) 美しいものや素晴らしいものに感動する心や人間の力を最大限に活用しようとする心をもつこと。</p> <p>(22) よりよく生きる喜びを感じること。</p>
D. 主として生命や自然、人間関係に関すること	<p>生命の尊さ</p> <p>自然愛護</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p>	<p>(17) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。</p> <p>(18) 身近な自然に親しみ、動物に親しい心で接すること。</p> <p>(19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p>	<p>(19) 生命の尊さについて、その脆弱性や有限性も含めて理解し、自分自身の生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさを知り、自然環境を大切にすること。</p> <p>(21) 美しいものや素晴らしいものに感動する心や人間の力を最大限に活用しようとする心をもつこと。</p> <p>(22) よりよく生きる喜びを感じること。</p>	<p>(19) 生命の尊さについて、その脆弱性や有限性も含めて理解し、自分自身の生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさを知り、自然環境を大切にすること。</p> <p>(21) 美しいものや素晴らしいものに感動する心や人間の力を最大限に活用しようとする心をもつこと。</p> <p>(22) よりよく生きる喜びを感じること。</p>